

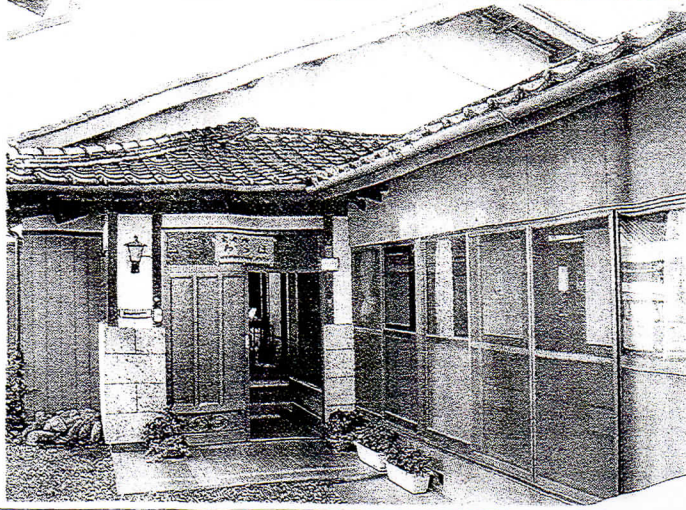
南信版

家庭的デイサービス施設

きょう民間宅老所開所式

伊 那

伊那市東春近中組の民家でNPO(民間非営利団体)法人「はるちか」が運営する連所介護の宅老所「おらほ」が二十七日、開所式をする。地元



27日に開所式をする宅老所「おらほ」(伊那市東春近)

に密着した小規模デイサービス施設として、要介護のお年寄りなどの受け入れを本格化していく。わが家を意味する「おらほ」は、介護保険の要介護、要支援認定の高齢者を受け入れる民間宅老所。同市内では初めての開設で、特別養護老人ホームなどに勤めた経験がある笹谷祐輔代表(四七)が「住み慣れた地域で家庭的な介護を受けられたら」と、賛同者を募り準備してきた。木造一部二階建て延べ百七十平方メートルの施設は、普通の民家で、県や市の補助を受け、トイレや風呂場などを障子が利用しやすいよう改造した。

本格的に受け入れへ

デイサービスの受け入れ定員は十人。スタッフは常勤二人、看護師などの非常勤六人で、平日の午前九時前後から午後四時すぎまで受け入れ、送迎、入浴、昼食などのサービスにも当たる。五月末から受け入れを始め、現在約三十人が登録。希望があれば介護保険の認定を受けていない高齢者を対象にしたミニデイサービスも行い、将来的には障害児を預かるタイムケアも計画している。笹谷代表は「利用者がゆったりとくつろげる家庭的な雰囲気での介護を提供したい」と話す。開所式では影響を受けた南箕輪村の宅老所「かいご家」や「漆戸徳弥代表の記念講演もある。